北区
区ビジョン
まちづくり計画

令和５～12年度
（2023～2030）

新潟市北区

【目　次】

はじめに …… 1
計画の構成 …… 1
SDGs（持続可能な開発目標）とは …… 2
北区 区ビジョン基本方針（新潟市総合計画より抜粋）…… 3
各区のすがた …… 4
第１章　北区の概要 …… 6
第２章　北区区ビジョンまちづくり計画体系図 …… 10
第３章　現状・課題 / 取り組みの方向性 …… 11
　Ⅰ　自然の魅力輝くまち …… 11
　Ⅱ　未来へ続く活力あるまち …… 14
　Ⅲ　いきいきと心豊かに暮らせるまち …… 20
　Ⅳ　安心・安全で住みよいまち …… 26
用語集 …… 29

表紙は、県立豊栄高等学校 デザイン芸術１コースの生徒がデザインしました。

はじめに

北区区ビジョンまちづくり計画は、新潟市総合計画の一部である区ビジョン基本方針の実現に向けた取り組みと、実施計画に相当する具体的な取り組みを示した北区のまちづくり計画です。

計画期間は、令和５（2023）年度から令和12（2030）年度までの８年間とします。

ただし、実施計画は、取り組みの実施状況や社会・経済状況の変化などに対応するため、２年ごとに策定し進捗管理を行います。

計画の構成

【新潟市総合計画とは】

○新潟市が目指すまちづくりのあり方を示すもので、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成されています。区ビジョンまちづくり計画の上位計画です。

○「基本構想」「基本計画」は、令和５（2023）年度から８年後の令和12（2030）年度までを計画期間とし、新潟市の目指すまちづくりの方針と、その実現に向けた政策と施策について記載するものです。また、施策の実現に向けた具体的な取り組みを掲載する「実施計画」は計画の中間である令和８（2026）年度に見直しを行います。

【区ビジョン基本方針とは】

○北区の将来像や目指す方向性などを示すものです。

○新潟市総合計画の「基本計画」の一部として策定されます。

○北区自治協議会で検討・審議をし、新潟市議会の議決を経て策定しました。

【区ビジョンまちづくり計画とは】

○「基本計画」と「実施計画」で構成され、うち「基本計画」は、区ビジョン基本方針を踏まえ、より具体的な取り組みの方向性を示すものです。

○計画期間は、令和５（2023）年度から令和12（2030）年度までの８年間となります。

構成は、

「第１章　北区の概要」

「第２章　北区区ビジョンまちづくり計画体系図」

「第３章　現状・課題／取り組みの方向性」

となっています。

○「実施計画（別冊）」は、２年ごとに策定し、進捗管理を行います。

新潟市総合計画

基本構想

まちづくりの理念と
目指す都市像

基本計画

基本的な政策や施策
土地利用の基本的方針

区ビジョン基本方針

実施計画

基本計画で示した
施策を実現するための
具体的な取り組み

区ビジョンまちづくり計画

基本計画

第１章　北区の概要

１ 地勢　２ 歴史　３ 自然　４ 人口
５ 土地利用　６ 産業　７ 交通

第２章　北区区ビジョンまちづくり
計画体系図

第３章　現状・課題／取り組みの
方向性

実施計画

上記で示した施策を実現する
ための具体的な取り組み（別冊）

SDGs（持続可能な開発目標）とは

○平成27（2015）年９月開催の「国連持続可能な開発サミット」で採択された、よりよい未来をめざすための**令和12（2030）年までの世界共通の目標**「**S**ustainable **D**evelopment **G**oals」の略称です。

○新潟市総合計画の基本構想に掲げた「持続可能なまちづくり」という方向性は、まさにSDGsにおける持続可能な開発（将来世代のニーズに応える能力を損ねることなく、現代の世代のニーズを満たす開発）の考え方と一致しています。

○新潟市総合計画においても「経済」「社会」「環境」の３側面の調和など、SDGsの基本的な考え方を意識して、それぞれの政策・施策を推進することとしています。

○全ての政策分野及び行財政運営において、市民・民間事業者・国・県・周辺市町村など多様な主体とのパートナーシップを活かした施策推進を重視していきます。

北区　区ビジョン基本方針（新潟市総合計画より抜粋）

区の将来像　**潟と大河と日本海、水の恵みに育まれ、人と人とがつながり、心豊かに支え合い、発展するまち**

Ⅰ 自然の魅力輝くまち

○福島潟、阿賀野川などの河川をはじめ、日本海に面した松林が続く海岸線や田園風景など、豊かな自然を守り、共生するまちを目指します。

○豊かな自然環境と調和し、その魅力を活かして交流人口を拡大し、「キタクなるまち」を目指します。

水の公園 福島潟

Ⅱ 未来へ続く活力あるまち

○新潟東港や地域の魅力を活かした商工業の振興を進め、新しい時代へつながる活力あるまちを目指します。

○若い力を活かし、地域の大学などと連携を深めながら、住み続けたくなるまちを目指します。

○農産物の高品質化および付加価値向上を図り、「儲かる農業」を目指します。

○道路アクセスの強化や公共交通の充実を進め、人やモノが交流する利便性の高いまちを目指します。

国際拠点港湾 新潟東港

Ⅲ いきいきと心豊かに暮らせるまち

○誰もが安心していつまでも健康に暮らせるまちを目指します。

○安心して子どもを産み育てることのできる環境をつくり、地域全体で子どもを支えていくまちを目指します。

○文化・スポーツ活動を通して、学びあい心豊かに暮らせるまちを目指します。

○地域コミュニティ協議会、自治会や区自治協議会などが協働し、様々な地域課題に取り組めるまちを目指します。

大学生による介護セミナー

Ⅳ 安心・安全で住みよいまち

○防犯活動や交通安全などの課題を地域で助け合いながら解決し、子どもからお年寄りまで安心して暮らせるまちを目指します。

○地域と協働し、地域防災力向上を図り、区民一人一人が自ら行動し助け合うまちを目指します。

○都市基盤施設を充実させ、災害に強いまちを目指します。

地域での防災訓練

各区のすがた

項目			新潟市全体	北区	東区	中央区
人口	総数	令和2年人口（人）	789,275	72,804	134,446	180,345
		令和27年推計人口（人）	631,510	55,285	100,674	160,995
	15歳未満	令和2年人口（人）　割合（%）	91,224（11.6）	8,195（11.3）	15,867（11.8）	19,599（10.9）
		令和27年推計人口（人）　割合（%）	60,835（9.6）	5,692（10.3）	9,988（9.9）	16,084（10.0）
	15～64歳	令和2年人口（人）　割合（%）	463,605（58.7）	41,301（56.7）	79,308（59.0）	112,981（62.6）
		令和27年推計人口（人）　割合（%）	317,625（50.3）	28,700（51.9）	52,253（51.9）	87,623（54.4）
	65歳以上	令和2年人口（人）　割合（%）	234,446（29.7）	23,308（32.0）	39,271（29.2）	47,765（26.5）
		令和27年推計人口（人）　割合（%）	253,050（40.1）	20,893（37.8）	38,433（38.2）	57,288（35.6）
		令和2年単身高齢者数（人）	35,041	2,644	6,643	10,409
		65歳以上に占める単身高齢者数の割合（%）	14.9	11.3	16.9	21.8
人口動態		年間増減（人）	−5,024	−779	−1,129	−552
		うち自然動態（人）	−4,310	−509	−632	−737
		うち社会動態（人）	−714	−270	−497	185
世帯		世帯数（世帯）	331,272	27,418	57,491	90,860
		1世帯あたりの人員（人）	2.4	2.7	2.3	2.0
		核家族の割合（%）	53.6	56.6	56.3	45.2
		単独世帯の割合（%）	35.1	27.5	33.8	48.6
		3世代世帯の割合（%）	7.1	10.5	5.9	3.0
面積		面積（㎢）	726.28	107.61	38.63	37.75

農業	農家戸数（戸）	9,675	1,414	282	174
	基幹的農業従事者数（人）	10,379	1,465	303	197
	うち65歳以上の割合（%）	67.8	68.6	62.7	59.4
	経営耕地面積（ha）	28,463	3,991	713	384
工業	事業所数（所）	949	156	176	100
	従業者数（人）	37,478	6,945	8,725	1,656
	製造品出荷額等（億円）	11,469	3,405	2,962	244
商業	事業所数（所）	7,985	542	1,138	2,831
	従業者数（人）	68,805	4,292	11,339	23,382
	年間商品販売額（億円）	32,319	1,408	5,265	13,394

（出典）人　口：国勢調査（R2）、推計値（新潟市全体）は国勢調査（R2）および人口動態統計特殊報告（H25～H29）から算出した新潟市独自推計値
推計値（各区）は新潟市全体の推計人口を、新潟市独自推計である「各区将来推計人口（H30）」の男女別5歳級別の構成比から算出したもの
※ 推計値（新潟市全体）と推計値（各区）は、基準としているデータが異なるため、区別、年齢別の区別人口の合計値は新潟市全体の年齢別人口と一致しない

江南区	秋葉区	南　区	西　区	西蒲区	項　目		
67,972	75,069	43,437	160,656	54,546	令和2年人口（人）	総　数	人口
51,875	55,965	30,282	140,380	36,054	令和27年推計人口（人）		
8,722（12.8）	9,080（12.1）	4,926（11.3）	19,178（11.9）	5,657（10.4）	令和2年人口（人）　割合（%）	15歳未満	
4,521（8.7）	5,548（9.9）	2,594（8.6）	15,115（10.8）	2,898（8.0）	令和27年推計人口（人）割合（%）		
38,653（56.9）	41,904（55.8）	24,761（57.0）	94,898（59.1）	29,799（54.6）	令和2年人口（人）　割合（%）	15～64歳	
25,469（49.1）	28,772（51.4）	13,879（45.8）	77,888（55.5）	16,035（44.5）	令和27年推計人口（人）割合（%）		
20,597（30.3）	24,085（32.1）	13,750（31.7）	46,580（29.0）	19,090（35.0）	令和2年人口（人）　割合（%）	65歳以上	
21,885（42.2）	21,645（38.7）	13,809（45.6）	47,377（33.7）	17,121（47.5）	令和27年推計人口（人）割合（%）		
2,431	2,987	1,255	6,735	1,937	令和2年単身高齢者数（人）		
11.8	12.4	9.1	14.5	10.1	65歳以上に占める 単身高齢者数の割合（%）		
−131	−547	−562	−604	−720	年間増減（人）	人口動態	
−319	−500	−373	−722	−518	うち自然動態（人）		
188	−47	−189	118	−202	うち社会動態（人）		
24,891	28,003	14,922	69,006	18,681	世帯数（世帯）	世　帯	
2.7	2.7	2.9	2.3	2.9	1世帯あたりの人員（人）		
61.9	60.1	56.9	53.8	56.5	核家族の割合（%）		
23.5	24.1	21.4	36.7	20.7	単独世帯の割合（%）		
9.6	10.2	14.9	5.6	16.0	3世代世帯の割合（%）		
75.42	95.38	100.91	94.00	176.57	面積（㎢）	面　積	

1,319	1,192	1,828	1,170	2,296	農家戸数（戸）	農　業
1,403	1,129	2,261	1,504	2,117	基幹的農業従事者数（人）	
70.2	70.9	64.4	61.0	74.1	うち65歳以上の割合（%）	
3,087	3,336	5,596	3,650	7,709	経営耕地面積（ha）	
111	76	124	68	138	事業所数（所）	工　業
6,058	2,400	5,803	1,487	4,404	従業者数（人）	
1,405	567	1,692	339	854	製造品出荷額等（億円）	
743	604	442	1,154	531	事業所数（所）	商　業
6,576	4,606	2,925	12,519	3,166	従業者数（人）	
2,860	1,068	818	6,826	680	年間商品販売額（億円）	

人口動態：新潟県人口移動調査（R3）
世　　帯：国勢調査（R2）
面　　積：全国都道府県市区町村別面積調（R4.1）
農・工・商業：2020農林業センサス、工業統計調査（R2）、経済センサス（R2）

1 地　勢

○北区は、新潟市北東部の阿賀野川以北に位置し、東は新発田市、聖籠町、南は阿賀野市に隣接しています。

○区の北側は日本海に面しており、海岸線に沿って砂丘地帯が形成されています。東に飯豊連峰、南には五頭連峰を望み雄大な田園風景が広がっており、近隣には月岡温泉があります。

○区の東南部に位置する福島潟は、国の天然記念物オオヒシクイの日本有数の越冬地として知られています。

2 歴　史

○北部の砂丘地帯のうち、一番内陸にある砂丘上の遺跡からは縄文時代前期末の土器が発見されており、これが北区最古の人類の痕跡とみられています。弥生～古墳時代になると、人々は自然堤防などのある低地に活動範囲を広げ、稲作を行ったと考えられています。奈良・平安時代には、海岸に近いところでは塩作りが行われていました。

○享保15（1730）年阿賀野川の松ヶ崎掘割（水路）工事とその翌年の洪水による掘割（水路）の阿賀野川本流化によって、広大な干上がり地が生まれ、耕地の開発が進みました。

○明治以降も度重なる水害に見舞われ、その中でも昭和41（1966）年と翌42（1967）年の２年連続の水害では、甚大な被害となりました。現在は新井郷川排水機場、胡桃山排水機場、福島潟放水路などの治水対策が行われ、さらに福島潟水門の設置工事も進められています。

○昭和44（1969）年には、日本海沿岸の工業開発の拠点として新潟港東港区（新潟東港）が開港しました。

○昭和の大合併では、北蒲原郡西部郷の松ヶ崎浜村・南浜村・濁川村が新潟市と合併しました（昭和29（1954）年）。そして木崎村・葛塚町・岡方村・長浦村が合併して豊栄町となり（昭和30（1955）、34（1959）年）、その後豊栄市となりました（昭和45（1970）年）。

○平成17（2005）年には新潟市と旧豊栄市を含む周辺13市町村が合併し、平成19（2007）年には政令指定都市に移行、旧北蒲原郡西部郷の地域は新潟市北区として、再び共に歩み出しました。

3 自　然

○区の東南部に位置する福島潟は、これまでに220種類以上の野鳥、470種類以上の植物が確認されている自然の宝庫です。

○阿賀野川河跡湖の十二潟や阿賀野川河口のひょうたん池などには貴重な水生動物・植物が生息・生育しています。

○北部の海岸線沿いにある松林は、自然と調和した「海辺の森」として整備され、様々な植物や野鳥が見られます。

冬季に飛来するオオヒシクイ

4 人　口

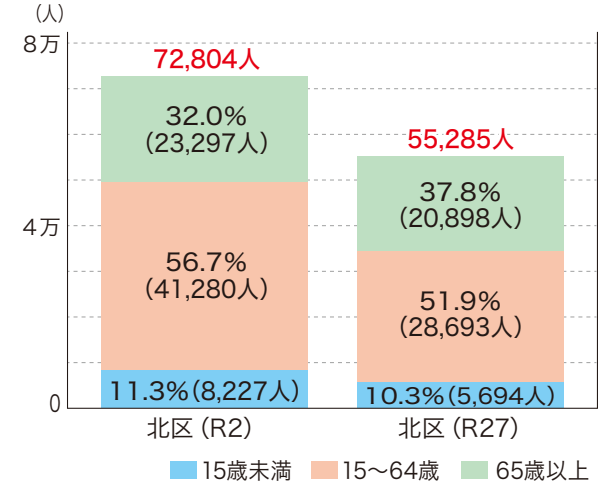
○令和２(2020)年の北区の人口は、72,804人です。

○年齢別にみると、15歳未満の年少人口割合は11.3%、15～64歳の生産年齢人口割合は56.7%、65歳以上の高齢者人口割合は32%となっています。

○区の人口に占める15～24歳の割合をみると市内で２番目に高い割合となっています。

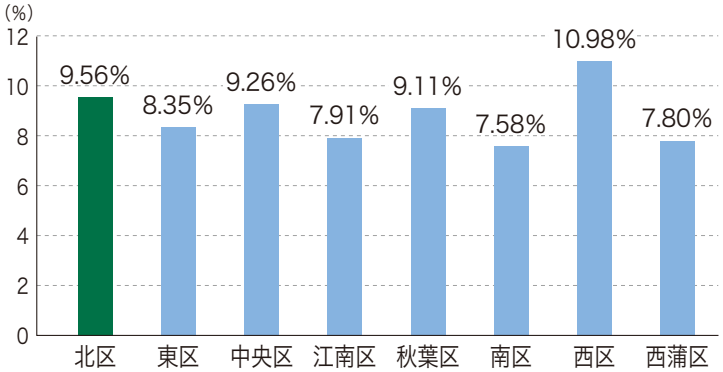
○令和27(2045)年推計人口は約55,000人であり、令和２年と比較して約17,500人の人口減となることが予測されています。また、65歳以上の高齢者人口割合が約６%増加すると予測されています。

【将来推計人口】



※P4「各区のすがた」より

【区別人口に占める15～24歳の割合】



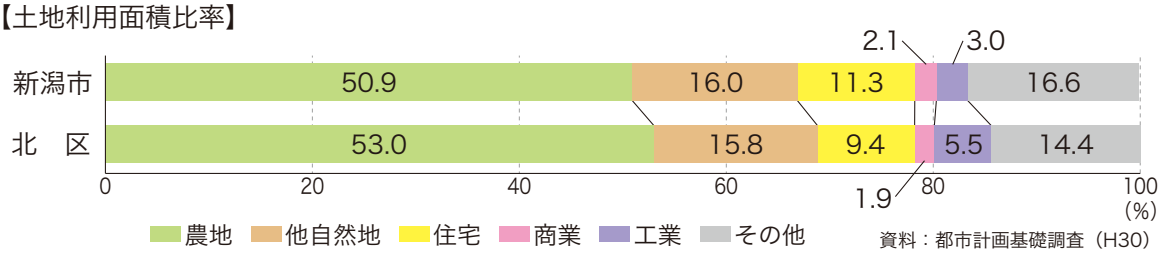
※資料：国勢調査(R2)

5 土地利用

○住宅地は、既存の市街地と農村集落、新たな宅地開発により造成された新興住宅地で構成されています。

○農地の割合は、区の面積の53%と市の平均と比較して高く、工業用地は新潟東港があり立地環境が良いことから、８区の中で最も広い面積を有しています。

【土地利用面積比率】



資料：都市計画基礎調査（H30）

○松浜・濁川・早通・木崎・葛塚地区では従来から人口が集中しています。国道7号（新新バイパス）沿線や県道新潟新発田村上線沿線、新潟東港、新崎地区などでは工業団地の整備が進められてきましたが、その後、ＪＲ白新線の駅周辺での住宅地造成や西名目所・濁川地区における工業団地造成などで、市街化区域が拡大しています。

6 産　業

○農業分野では、「儲かる農業」の実現に向け、稲作を主体としつつ、園芸作物との経営複合化や園芸産地拡大にも積極的に取り組んでいます。中でも北区産のトマト、なすは県下一の出荷量を誇り、高い評価を受けています。

北区産トマト

北区産なす

○国際拠点港湾である新潟東港は、本州日本海側最大のコンテナ貨物取扱量を誇り、国際物流やエネルギー供給の拠点となっています。

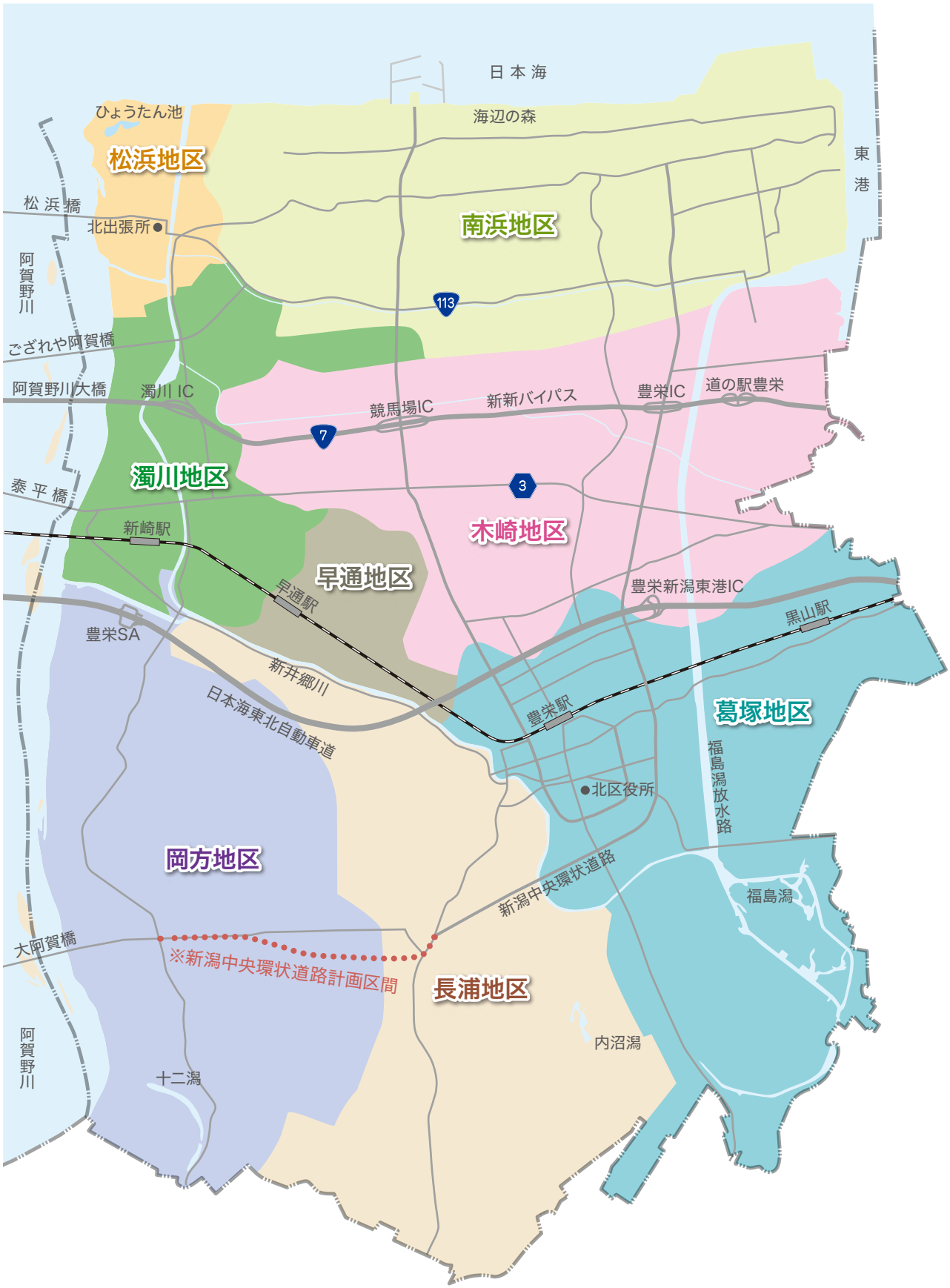
○主要幹線道路や隣接区に国際空港があるなど、国内外のアクセスの良さから多数の工業団地が整備され、地域経済を支えています。

○商業分野では、豊栄駅前地区、松浜地区の商店街の賑わいづくりに取り組んでいます。両地区では古くから露店市が開かれており、まちの台所として人々に親しまれています。

7 交　通

○日本海東北自動車道、国道7号（新新バイパス）、国道113号の主要幹線道路が東西を貫き、新潟中央環状道路をはじめとする県道、市道と結ばれ道路網を形成しています。鉄道はＪＲ白新線が運行されており、区内には4つの駅があります。バスは市の中心部から南浜地区や新発田方面へと運行されているほか、区バス・住民バスなどが区内の移動手段としての役割を担っています。

北区の全体図


日本海
ひょうたん池
海辺の森
松浜地区
東港
松浜橋
北出張所
南浜地区
阿賀野川
113
ござれや阿賀橋
阿賀野川大橋
濁川IC
競馬場IC
新新バイパス
豊栄IC
道の駅豊栄
7
濁川地区
泰平橋
3
木崎地区
新崎駅
早通地区
早通駅
豊栄新潟東港IC
黒山駅
豊栄SA
新井郷川
日本海東北自動車道
豊栄駅
葛塚地区
福島潟放水路
北区役所
岡方地区
新潟中央環状道路
福島潟
大阿賀橋
※新潟中央環状道路計画区間
長浦地区
内沼潟
阿賀野川
十二潟

北区　区ビジョンまちづくり計画体系図

区の将来像	目指す区のすがた	大分類（現状・課題）	中分類（取り組みの方向性）
潟と大河と日本海、水の恵みに育まれ、人と人とがつながり、心豊かに支え合い、発展するまち	Ⅰ 自然の魅力輝くまち	1．環境保全	①潟や森などの自然環境保全
			②快適な生活環境づくり
		2．自然環境活用	①環境教育・自然とのふれあい
		3．観光交流	①交流人口の拡大
	Ⅱ 未来へ続く活力あるまち	4．商工業	①工業の振興
			②商業の活性化
		5．農　業	①農業の振興
			②農業基盤の整備保全
		6．大学などとの連携	①若者との協働によるまちづくり
		7．道　路	①道路の整備・維持管理
		8．土地利用	①計画的な土地利用
		9．公共交通	①公共交通の充実
	Ⅲ いきいきと心豊かに暮らせるまち	10．健　康	①健康に暮らせる地域づくり
		11．福　祉	①支え合える地域づくり
		12．子育て	①子育て支援の環境づくり
		13．教　育	①地域とともにある学びの場
		14．文化・スポーツ	①文化・芸術・スポーツ活動の活性化
		15．協　働	①区民との協働推進
	Ⅳ 安心・安全で住みよいまち	16．防犯・交通安全	①防犯対策
			②交通安全の推進
		17．防　災	①災害時に助け合える地域づくり
		18．浸水対策	①雨に強いまちづくり

Ⅰ 自然の魅力輝くまち

関連する SDGs

1 環境保全

（1）現状・課題

○北区は、福島潟をはじめ、阿賀野川や日本海に面した「海辺の森」、雄大な田園風景など、豊かな自然に恵まれています。これら市民の憩いの場となっている魅力ある自然環境を将来に残していくことが重要です。

○自然環境の保全には、自然保護活動を積極的に行っている団体の支援や育成が重要です。また、区民の環境保全に対する意識を高めるとともに、地域の保全活動を継続するための体制づくりも求められています。

○松浜海岸では、冬場の季節風により発生する飛砂が、ひょうたん池や近隣の住宅地に被害を与えており、飛砂防止対策が求められています。

○福島潟、十二潟やひょうたん池には、希少な動植物が生息・生育しています。希少種の保護や外来種の駆除などが重要です。

○阿賀野川の河川敷には、スポーツ施設や公園が整備され、憩いの場となっています。

○公共用水域である新井郷川や福島潟放水路などのさらなる水質の向上が求められています。

○河川や潟、放水路に沿った地域では、ポイ捨てをはじめとするごみの不法投棄が見られます。このため、意識啓発活動を続けていくことが重要です。

松浜のオアシス ひょうたん池

福島潟でのクリーン作戦

（２）取り組みの方向性

① 潟や森などの自然環境保全

○自然環境の保全のため、区民や隣接する自治体などとの連携、協働により環境保全活動の推進に取り組みます。

○自然保護に積極的なＮＰＯ法人などの団体に、情報提供など必要な支援を行います。

松浜海岸でのアキグミの植栽

② 快適な生活環境づくり

○家庭などからの排水を下水道や合併処理浄化槽により適切に処理することで、身近な河川や水路の水質保全を図り、公共用水域の環境改善を進めていきます。

○ごみの不法投棄が見られる場所において、清掃活動などを実施し、多くの人に参加してもらうことで環境美化への意識向上につなげます。

２ 自然環境活用

（１）現状・課題

○北区は、豊かな自然から多くの恵みを受けてきました。特に、福島潟や「海辺の森」などでは、魅力ある自然環境を教育や観光に活用しています。

○福島潟、十二潟やひょうたん池などでは、地元の小・中学生が環境学習に取り組んでいます。このような活動を継続していく体制づくりが重要です。

十二潟での観察会

（２）取り組みの方向性

① 環境教育・自然とのふれあい

○自然環境を環境教育や自然体験の場、地域づくりの場、ふれあいと憩いの場として活用します。

○環境教育に関わるＮＰＯ法人などの団体に必要な支援を行います。

福島潟での校外学習

3 観光交流

（1）現状・課題

海辺の森 キャンプ場

○県内最大の潟である福島潟をはじめ、美しい景勝地や歴史スポットが観光資源として多数存在します。

○福島潟は、新潟の原風景を今に残し独自の自然環境や食文化などの魅力があります。

○「海辺の森」周辺では、キャンプ場や遊歩道などが整備され、自然を楽しむ空間として利用されているほか、隣接する島見浜海水浴場は、市内外からの観光客やファミリー層に人気の夏季レジャースポットとして親しまれています。

○地域の魅力や特徴を活かした観光振興を図るため、宿泊施設の拡充や交通機関のアクセス向上が重要です。

（2）取り組みの方向性

① 交流人口の拡大

○令和４（2022）年に「ラムサール条約湿地自治体認証制度」に基づく国内初の認証を受けた都市として、引き続き福島潟をはじめとする湿地の保全並びに自然環境の賢明な利用につなげます。

○訪れた人が北区の観光を満喫できるよう、自然環境などを活かした観光資源の充実に努めます。

○地域の魅力を発信するとともに、観光振興に携わる人材を育成し、交流人口の拡大を図ります。

福島潟自然文化祭 雁迎灯（かんげいび）

観光バスツアー

Ⅱ 未来へ続く活力あるまち

関連する SDGs

4 商 工 業

（1）現状・課題

○国際拠点港湾・総合的拠点港である新潟東港は、東アジア諸国を結ぶコンテナ航路が開設されており、国際貿易港として機能整備が進められています。コンテナ貨物取扱量は、本州日本海側最大となっています。

○新潟東港は物流機能だけでなく、クルーズ客船の寄港などを通して観光振興につなげていくことも重要です。

○新潟東港、新潟空港、国道７号（新新バイパス）や高速道路などの交通網も整備されていることから、産業立地に優位な環境にあります。

○区内には多くの工業団地があり、製造業や物流関連企業が集積しています。

○国内外の著しい変化などに対応しながら、地域産業の活性化や雇用の拡大へつなげるため、この恵まれた立地環境を活かし、さらなる企業誘致を進めることが重要です。

○国内外の企業間競争が厳しくなる中、国際的にも通用する新技術の開発や、労働生産性の向上が求められています。

新潟東港に寄港したクルーズ客船

【北区の製造業の推移】

項目＼年度		H 19	H 23	H 27	R 1
製造品出荷額（百万円）		184,417	158,065	198,951	223,887
	食料品	34,218	32,283	43,527	45,768
	化学工業	89,704	75,146	89,474	100,762
	金属製品	8,601	8,394	12,122	11,867
	汎用機械	15,537	4,916	7,467	12,144
	生産用機械		4,752	5,472	12,389
	その他	36,357	32,574	40,889	40,957
付加価値額		88,205	80,535	92,223	100,873

資料：工業統計調査

○商店街は、郊外型大型店の進出などの影響や後継者不足により衰退が進み、空き店舗が増えています。
○商店街の魅力を高め、広く発信するとともに、経済、社会環境の変化に対応するため、集客力を高める事業を再構築していくことが重要です。
○葛塚と松浜には伝統ある露店市が開かれ、多くの買い物客で賑わってきましたが、近年、出店者の高齢化に伴い店舗数の減少が進んでいます。

（2）取り組みの方向性

① 工業の振興

○原料の輸入や製品の輸出など、新潟東港の活用促進に努めます。
○企業誘致を推進するため、製造業などの工場や物流施設の建設を支援します。
○中小企業者の生産性向上、脱炭素化に向けた取り組みを促進します。

松浜地区の工場夜景

② 商業の活性化

○商店街団体などの活動を促進し、まちの活性化を図ります。
○商業、農業、観光、大学など各分野の関係機関と連携し、地域の賑わい創出に取り組みます。
○商工会など関係団体と連携し、デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の推進による新事業への取り組みを支援します。
○葛塚市・松浜市の連携事業や地域が行う活性化イベントの取り組みを支援し、新規参入店舗の促進を図り、来訪客の増加につなげます。

葛塚市

松浜市

5 農　業

（1）現状・課題

○米を中心に野菜、花きなど、多種多様な農産物の生産が行われ、中でもトマトとなすは、県下一の出荷量を誇っています。その一方で農業者の高齢化や担い手不足により、農業者数や生産量が減少しており、所得安定や、農業経営の担い手確保が重要な課題となっています。

○農地、とりわけ水田の多くは海抜ゼロメートル以下の低地にあり、降雨時の排水をポンプに依存しているため、継続的に施設保全を行うことが重要です。

○水田や畑などの農地は、貯水・遊水機能とともに、水資源かん養や水質浄化機能も果たしています。果樹園は、花が咲く季節には、美しい景観を形成しています。こうした環境の維持、保全を続けていくことが重要です。

美しい水田

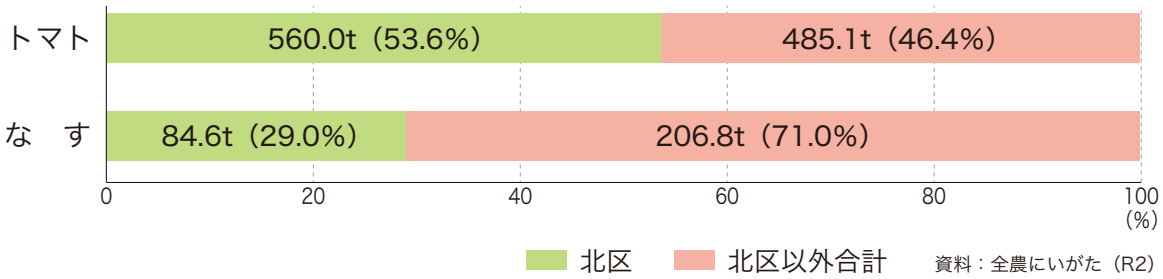
県下一の出荷量を誇るトマト

（2）取り組みの方向性

① 農業の振興

○生産コスト低減、農産物の高品質化と付加価値向上を図り、「儲かる農業」を推進します。

【北区産トマト・なすの県内における出荷量】



資料：全農にいがた（R2）

○農地の集積・集約化による農作業の効率化を図るとともに、意欲ある新たな就農希望者への支援・育成を推進し、農業経営の担い手確保に努めます。

② 農業基盤の整備保全

○「儲かる農業」の実現に向け、農道や水路などの整備保全を行い、生産性の向上を図ります。

6 大学などとの連携

（1）現状・課題

○区内には２つの大学が立地し、学生が多いことから、この若い力を活かし、住み続けたくなるまちづくりを望む声が多くあります。

○平成22（2010）年に新潟医療福祉大学と包括連携協定を結び、連携事業を継続して行っており、活動の場が広がっています。

（2）取り組みの方向性

① 若者との協働によるまちづくり

○大学や区内で活動している団体、民間企業などと多様な連携をさらに深めます。

○若者や民間企業などの発想や専門的知見を活かし、まちの活性化につながる取り組みを支援することで、地域が主体的に取り組むまちづくりにつなげます。

うまいもん市場で出店した大学生のブース

大学生によるまちづくりワークショップ

7 道　路

（1）現状・課題

○国道７号（新新バイパス）、国道113号、日本海東北自動車道などの東西を貫く幹線道路が充実し、市中心部方面と新発田市方面への接続には高い利便性があります。

○今後は、各区へつながる新潟中央環状道路や、区内の拠点を結ぶ南北の道路のさらなる整備が重要となります。

○道路などの老朽化による維持管理費の増加が見込まれています。日常の生活環境を維持するため、継続的に維持管理を行い、生活道路網を確保していくことが求められています。

新潟中央環状道路（浦木地区）

（2）取り組みの方向性

① 道路の整備・維持管理

○区内外の拠点を結ぶ、利便性の高い道路の整備を行います。

○日常の生活環境を維持するため、道路などの維持管理を継続的に行います。

8 土地利用

（1）現状・課題

○水田や畑などの農地が、区内全域に広がっています。新潟東港、濁川地区などには工業団地があり、松浜・濁川・早通・木崎・葛塚地区は、住宅地に利用されています。

○区全体のまちづくりに向け、今後都市機能の拠点となる地区の計画的な土地利用が求められています。

（2）取り組みの方向性

① 計画的な土地利用

○既存市街地やその周辺、物流や教育などの機能を有する地区において、計画的な土地利用を進めていきます。

9 公共交通

（1）現状・課題

○東西方向にＪＲ白新線、路線バスが運行され、市中心部と区内の主要な地域が結ばれています。南北方向には、区が運営主体である区バス、地域住民が運営主体である住民バスが運行され、それぞれＪＲ豊栄駅、新崎駅に結節しています。

○区内には、公共交通を利用しにくい地域があるほか、高齢化もさらに進むことなどから、引き続き生活交通の検討をしていくことが重要です。

（2）取り組みの方向性

① 公共交通の充実

○区バス・住民バスについて、運行内容などを継続的に見直し、生活交通としての利便性の向上に努めるとともに、持続可能な公共交通の実現を目指し取り組みます。

北区 区バス

北区住民バス おらってのバス

○エリアバス×タクやデマンド交通などの社会実験を通して、地域に即した公共交通になるよう取り組みます。

○公共交通を利用しにくい地域について、引き続き地域の声を聴きながら、生活交通などの検討をしていきます。

エリアバス×タク Let's ながうら号

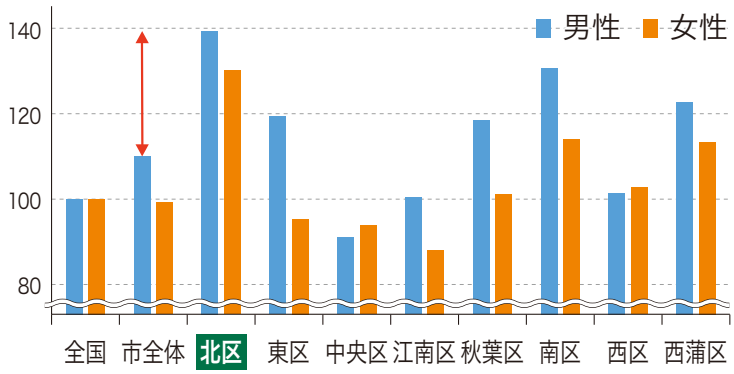
Ⅲ いきいきと心豊かに暮らせるまち

関連する SDGs

10 健　康

（１）現状・課題

【脳内出血の標準化死亡比】



資料：厚生労働省　人口動態保健所・市町村別統計（H25~29）
※標準化死亡比　全国100とした場合

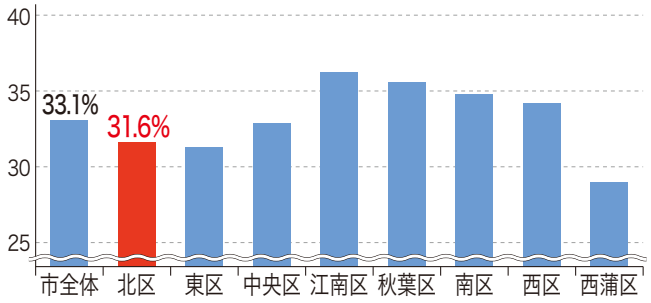
○本市は全国に比べ脳血管疾患による死亡率が高く、中でも北区は脳内出血の死亡率が群を抜いて高くなっています。脳出血を引き起こす要因には、高血圧や喫煙などがありますが、血圧が高い人の割合が市内で一番高く、運動や食事といった生活習慣の改善と定期的な健診による予防が重要です。

○北区では高齢化が市全体を上回るスピードで進行しています。誰もが住み慣れた場所で安心して暮らすため、地域ぐるみで介護や認知症を予防する取り組みを進めることが重要です。

○生涯にわたり健康を維持していくためには、子どもの頃からの健康に対する意識付けが大切です。

（２）取り組みの方向性

【各区の特定健診受診率】



資料：特定健康診査等の実施状況（実績値）（R2年度）

① 健康に暮らせる地域づくり

○一人一人が自分の健康状態を把握し、病気の早期発見・治療に結びつけられるよう、特定健診や各種検診の受診率向上に取り組みます。

○認知症の予防や早期発見を図るため、関係機関と連携し周知・啓発に取り組みます。

○保健師、栄養士による個別相談会や講習会を通じ、健診結果の数値改善や、食生活の改善などにつなげます。

○健康づくりのための運動を支援する講座の開催に加え、運動普及推進委員やフレイルサポーターなど地域で活動するボランティアと連携し、「地域の茶の間」や老人クラブなどで出前講座を実施し、地域ぐるみで健康寿命の延伸に取り組めるよう支援します。

○小・中学校と連携しながら、保護者や子どもたちに健康づくりの啓発と生活習慣病予防の周知に取り組みます。

フレイルチェック

11 福　祉

（1）現状・課題

○高齢化や少子化の進行に加え、地域や個人が抱える課題は多岐にわたり、より複雑化しています。誰もが住み慣れた場所で安心して暮らすため、「地域共生社会」の実現が重要です。

○介護予防や医療、生活支援において多様化するニーズに対し、様々なサービスや地域活動を組み合わせて総合的に対応できることや、分野ごとの支援だけでは十分に対応できない制度の狭間の課題を解決する仕組みづくりが求められています。

○障がいのある人の高齢化が進んでおり、住み慣れた地域で継続して安心した生活を送ることができるよう、本人・家族への地域における支援体制や多様化するニーズに対する支援体制の確保・構築が重要です。

（2）取り組みの方向性

① 支え合える地域づくり

○「支え合いのしくみづくり会議」や「ござれやネット」などの関係機関と連携し、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの充実をさらに進めます。

○「地域の茶の間」の充実と新たな立ち上げの支援に取り組むとともに、住民が主体となった生活支援の取り組みを促進します。

支え合いのしくみづくり会議の様子

地域の茶の間の様子

○障がい者福祉施設や関係団体が一体となり、既存の社会資源などを組み合わせて活用し、多面的な支援体制の確保、構築を図ります。
○障がいや介護などに関する様々な機関が協働し包括的に支援する重層的な体制を構築し、誰もが住みなれた場所でいきいきと心豊かに暮らせるまちづくりを目指します。

12 子育て

（１）現状・課題

○少子高齢化や共働き家庭の増加などにより、子育て環境は大きく変化しており、育児の悩みや心配ごとを相談できる人が身近にいないという世帯が増えています。
○子育て世帯の孤立を防ぐため、妊娠・子育てに関する総合相談に加え、子育てネットワークの構築など子育てを支え合う仕組みづくりが重要です。
○全ての子どもが豊かな子ども期を過ごすことができるまちを実現するため、子育て支援施設などの関係者が連携・協力し、子どもを地域全体で見守っていくことが重要です。

（２）取り組みの方向性

① 子育て支援の環境づくり

○「妊娠・子育てほっとステーション」において、保健師や助産師、保育コンシェルジュ、子ども家庭支援員などの専門職が妊娠期から育児期にわたりその時期に応じた相談にワンストップで応じ、関係機関と連携しながら子育てを支援します。
○子育て支援センターや児童館などで子育て支援講座を実施するほか、子育て世帯の交流会を通じ、ネットワークづくりに取り組みます。
○既存の児童館を拠点に各地域で出張児童館を展開するほか、子どもが健やかで心豊かに過ごせる地域の居場所づくりの取り組みを推進します。

自宅でできる運動教室（子育て支援講座）

公民館での出張児童館

13 教　育

（1）現状・課題

○一人一人の子どもの学びと成長を支える学習環境の支援と活力あるまちづくりに向けて、学校と地域が一体となった教育活動の仕組みづくりが重要です。

○社会環境が急速に変化する中、人権や多様性を尊重し、地域課題の解決や自己実現に向けた学習機会の提供が求められています。

（2）取り組みの方向性

① 地域とともにある学びの場

○「コミュニティ・スクール」の導入により、学校と地域が共通の目標を持って、学校、社会教育施設、家庭、地域をつなぐネットワークづくりをさらに進め、子どもの豊かな成長を支える協働事業を推進します。

○大学と連携し、区内の学校における児童・生徒の学習支援や学校行事、部活動に対する支援を行い、学力・運動能力などの向上を図ります。

○地域課題や多様なニーズに応じた学習機会を充実させ、学びを通した地域の絆づくりを推進します。

地域と取り組む学校の農園活動
（地域と学校パートナーシップ事業）

中学生ガイドと一緒に歩こうまちあるきツアー

美術企画展のワークショップ

サタデイキッズ（町探検）

14 文化・スポーツ

（1）現状・課題

○伝統や文化を伝える人や機会の減少などにより、地域への誇りや愛着を持てる環境が失われつつあります。活力あふれるまちづくりを進めるため、区民が郷土の歴史・文化・芸術に触れる環境づくりが重要です。

○生涯を通じて気軽にスポーツに親しめるような取り組みや、多様な団体が主体となり、人と人とをつなぐ、スポーツ・レクリエーション活動への支援を進めています。

葛塚まつり

福島潟駅伝競走大会

（2）取り組みの方向性

① 文化・芸術・スポーツ活動の活性化

○区民が郷土の歩みを学ぶ機会や、文化・芸術に親しむ機会を創出するとともに、地域の歴史・文化・芸術活動を担う人材を育成します。

○区民が主体となる文化・芸術活動への支援を通じ、地域の活性化や交流人口の拡大を図ります。

○各スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブの活動を支援し、区民が気軽にスポーツ活動に参加できる機会の充実を図ります。

高森の神楽

北区フィルハーモニー管弦楽団演奏会

15 協　働

（1）現状・課題

○都市化の進展などによるコミュニティ意識の希薄化や人口減少・少子高齢化の進行に伴い、地域活動の担い手不足が問題になっており、これからのまちづくりを支える人材の育成が求められています。

○区民のニーズや地域課題が多様化・複雑化しており、区民のニーズを捉えたまちづくりや地域課題の解決を推進するために、より一層の情報共有や意見交換が重要です。

（2）取り組みの方向性

① 区民との協働推進

○区自治協議会、地域コミュニティ協議会および自治会活動の支援や活動内容の周知、研修などの学習機会の提供を通して、人材の育成に取り組みます。

○幅広い世代が、性別に捉われず共同で参画し、地域活動に関わることができるような仕組みづくりを推進することで、地域活動の担い手確保につなげます。

○多様化・複雑化する区民ニーズや地域課題に対応するため、コミュニティ活動や区自治協議会などでの意見交換が活発に行われるよう取り組みます。

地域住民などによるクリーン活動

区ビジョンまちづくり計画策定ワークショップ
（北区自治協議会）

Ⅳ 安心・安全で住みよいまち

関連する SDGs

16 防犯・交通安全

（１）現状・課題

○区民が安心して暮らしていくため、犯罪が発生しにくいまちづくりへの取り組みが求められています。

○自治会やコミュニティ協議会などには、防犯活動を行う団体が組織されていますが、活動人員の高齢化や後継者不足が問題となっています。

○交通事故の件数は年々減少傾向にあるものの、高齢者が関わる交通事故は毎年高い割合を占めています。子どもたちだけでなく高齢者を対象とした、交通安全への取り組みが重要です。

郵便局による防犯パトロール

登下校の見守り

（２）取り組みの方向性

① 防犯対策

○犯罪を未然に防ぐため、防犯設備の整備支援や、地域と連携したパトロールなどの防犯活動を継続して行います。

○防犯活動を持続的に行うため、地域コミュニティ協議会、自治会や小学校の見守り隊などの防犯活動団体が、お互いに連携協力していく仕組みづくりを検討していきます。

② 交通安全の推進

○交通事故を防ぐため、地域、警察や関係団体と連携し、交通安全に関する啓発活動を行い、区民の意識向上に努めます。

○交通事故防止に向けて、自治会、町内会とともに高齢者を対象とした交通安全教室を実施します。

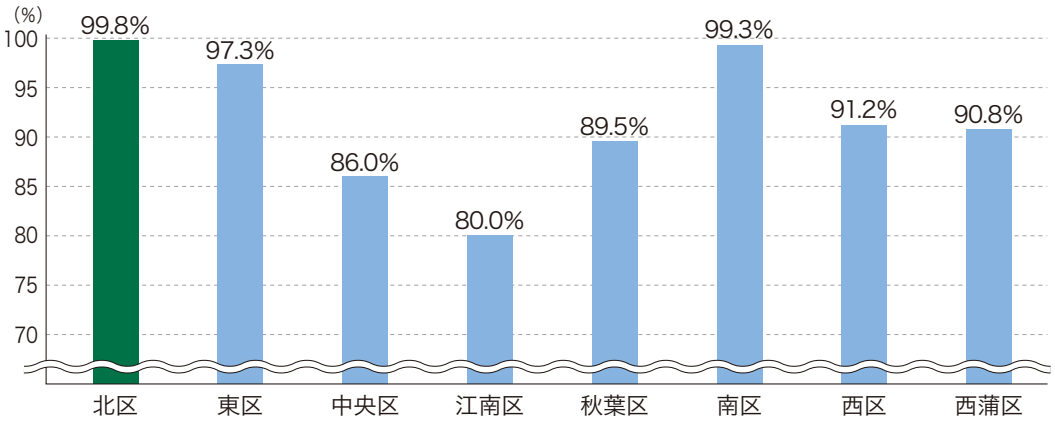
17 防　災

（1）現状・課題

○気候変動により豪雨や台風といった自然災害が激甚化・頻発化しています。日頃から地域の災害リスクを把握し、避難行動を検討するなど、各自で災害に備えることが重要です。

○避難行動要支援者への支援や避難所運営などを行うにあたり、地域で助け合う体制づくりが求められています。

【自主防災組織結成率】



資料：新潟市危機管理防災局防災課調べ（R3年度）

（2）取り組みの方向性

① 災害時に助け合える地域づくり

○一人一人が判断して行動できるように自助意識の啓発に努めます。

○避難行動要支援者に寄り添い、地域で助け合う仕組みづくりを促進します。

○防災士が地域に積極的に関われるよう支援します。

○避難所運営を担う組織体制の構築を促進します。

防災イベント

18 浸水対策

（１）現状・課題

○これまでの度重なる水害により福島潟放水路などが整備されましたが、依然として近年の都市化の進展や局所的な豪雨により、市街地の浸水被害が発生しています。

○浸水対策や治水対策の強化が重要です。

（２）取り組みの方向性

① 雨に強いまちづくり

○雨水対策施設は、過去の浸水被害状況や現在の整備水準などにより、優先度の高い地区から整備を進めます。

○市街地と農地の浸水対策として、福島潟やその周辺において実施する新潟県の河川改修事業などを促進します。

雨水貯留施設の整備

用 語 集

あ行

海辺の森（初出Ｐ7）

阿賀野川河口域から新潟東港まで、延長約４㎞の海岸線沿いに広がる飛砂防備保安林。林内にはキャンプ場や遊歩道が整備されている。

運動普及推進委員（初出Ｐ21）

健康づくり・介護予防のための運動習慣の普及を図るボランティア活動を継続的に実施するため、市が実施する養成事業を修了した人。

エリアバス×タク（初出Ｐ19）

バス路線の確保・維持が困難になっていく恐れのある地域で、中型のバス車両とタクシー車両を組み合わせて運行し、運行の効率化や、多様なニーズへの対応、高齢者の移動の負担軽減を目指す新たな公共交通システム。

オオヒシクイ（初出Ｐ6）

カモ科の鳥。ユーラシア北部で繁殖、日本には冬鳥として飛来。オオヒシクイは、ヒシクイの亜種でヒシクイよりも一回り大きく、国の天然記念物に指定。北区の鳥（平成27（2015）年１月１日制定）。

か行

胡桃山排水機場（初出Ｐ6）

福島潟の水をポンプにより阿賀野川へ流し、水害などから流域を守る治水施設。
昭和57（1982）年完成。

公共用水域（初出Ｐ11）

水質汚濁防止法によって定められる、公共利用のための水域や水路のことをいう。河川、湖沼、港湾、沿岸海域、かんがい用水路など。ただし、下水道は除く。

国際拠点港湾（初出Ｐ8）

国際海上貨物輸送網の拠点となる港湾として政令で定める港湾。（港湾法第２条第２項）

ござれやネット（初出Ｐ21）

「北区医療と介護のささえあいネット」の通称。
医療・福祉の専門職など多職種の連携・協働を図ることにより、誰もが在宅で暮らせる環境づくりおよび在宅医療・福祉の連携体制の推進を図ることを目的に活動している。

コミュニティ・スクール（初出Ｐ23）

学校ごとに保護者、地域住民、校長などの委員で構成され、育てたい子ども像や学校運営の基本方針を共有し、ともに子どもの成長を支える仕組みである、学校運営協議会を設置した学校。

さ行

支え合いのしくみづくり会議（初出Ｐ21）

地域全体で高齢者を支えるため、地域で活動する団体や住民が集まり、地域課題の把握やその地域に必要な支え合いの仕組みなどについて話し合う会議。

総合型地域スポーツクラブ（初出Ｐ24）

日常的に活動の拠点となる施設を中心に、幅広い世代の人々が、各自の興味関心・競技レベルに合わせた活動を質の高い指導者のもとで行うことができる、地域住民で組織・運営される地域密着型のスポーツクラブ。新潟市内ではハピスカとよさかが唯一の同クラブ（令和４(2022) 年現在)。

た行

脱炭素化（初出Ｐ15）

地球温暖化の原因となる二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を実質ゼロにしようという取り組み。

地域共生社会（初出Ｐ21）

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会。

地域の茶の間（初出Ｐ21）

子どもから高齢者、障がい者など誰もが気軽に集まり交流することができる地域の場所のこと。厚生労働省が進める「通いの場」と同様のもの。

地域包括ケアシステム（初出Ｐ21）

住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けることができるように、「介護予防・生活支援・介護・医療・住まい」の５つの要素が連携しながら、地域全体で高齢者を支える仕組み。

デジタルトランスフォーメーション（DX）（初出Ｐ15）

デジタルによる変革。デジタル技術を活用して顧客や社会ニーズを基に製品、サービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務、組織、プロセス、企業文化、風土を変革すること。

な行

新井郷川排水機場（初出Ｐ6）

河川の氾濫による被害を防ぐため、福島潟の水をポンプにより日本海にくみ出し流域の宅地や農地を洪水被害から守る施設。昭和36（1961）年に旧排水機場が完成。その後老朽化と機能低下などから全面改修し、平成７(1995) 年に現在の排水機場が完成。

は行

避難行動要支援者（初出Ｐ27）

高齢者、障がい者、乳幼児、外国人など災害時に自ら避難することが困難な人で、避難の支援を希望する人。

福島潟放水路（初出Ｐ6）

福島潟の水位が高くなったとき、その水を直接日本海へ流し、周辺の水害を防ぐ人工水路。平成15（2003）年３月完成。

２つの大学（初出Ｐ17）

北区には新潟医療福祉大学、新潟食料農業大学が立地している。

新潟医療福祉大学（平成13（2001）年開学）は看護・医療・リハビリ・栄養・スポーツ・福祉・医療・ＩＴを学ぶ６学部14学科の医療系総合大学。在籍者数約4,600人（令和４(2022) 年現在)。

新潟食料農業大学（平成30（2018）年開学）は、食料と農業とビジネスを一体的に学ぶことができる新たな「食」の総合大学。在籍者数610人（令和４(2022) 年現在)。

フレイル（初出Ｐ21）

加齢により心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）が低下した状態。「虚弱」を意味する英語「frailty」を語源として作られた言葉。多くの人が健康な状態からこのフレイルの段階を経て、要介護状態に陥いると考えられている。

フレイルサポーター（初出Ｐ21）

フレイルチェックの運営ボランティア。市が実施する養成講座を受講した人。

保育コンシェルジュ（初出Ｐ22）

就学前の子どもの預け先について保護者の相談に応じる相談員。

ま行

水資源かん養（初出Ｐ16）

水田に利用される灌漑用水や雨水が時間をかけて地下に浸透し河川に還元され、流況が安定的に保たれることや、浸透した水が流域の地下水となり、良質な水として活用されること。

ら行

ラムサール条約湿地自治体認証制度（初出Ｐ13）

ラムサール条約の決議に基づき、湿地の保全・再生、管理への地域関係者の参加、普及啓発、環境教育などの推進に関する国際基準を満たす自治体に対して認証を行うもの。新潟市、鹿児島県出水市が国内初の認証となった。

北区区ビジョンまちづくり計画
令和５年３月　発行

【発 行】
新潟市北区役所 地域総務課
〒950-3393 新潟市北区東栄町１丁目1番14号
電 話　025-387-1000
http://www.city.niigata.lg.jp/kita/
E-mail:chiikisomu.n@city.niigata.lg.jp

潟と大河と日本海、水の恵みに育まれ、人と人とがつながり、
心豊かに支え合い、発展するまち